



わたしは動物好きなのですが、特に猫が好きで  
自宅に3匹飼っていますよ。

## 私のやらなければいけないこと

やらんといけん!  
どんなことでも!

### 1. 市民の意見を聞き施策に反映する

地域の意見を聞き施策に反映することはもちろん、20代、30代、40代の若い世代の代弁者になる。また、対話会を通じて活発な議論を行い、若い世代の政治参加を推進します。

### 2. 情報公開と双方向の議論推進

市政の情報公開の推進とともに ICT 等を積極的に活用し、双方向の議論を行う。市民の合意形成(市民が納得できる・合意できる)を重視する。また、すべての議論には多種多様な意見があり、単純に賛成・反対の議論ではなくよりよい方向に導くよう努力する。議論の先送りをしない。

### 3. 地域活性化の推進

地域活性化とは、「人と人とのつながり」、「生活環境整備」、「ビジネス環境整備」から人口減少を食い止める事もしくは人口増を実現する事だと考えます。人と人とのつながりは、街を元気にするためのポイントですが、それだけでは課題解決はできません。魅力を高める街づくりとして「ビジネス環境の整備」、「生活環境の整備」を推進し、「生活都市三原」の構築を行います。

### 4. 地域ブランド化

三原という地域が一つのブランドとして、魅力的な三原ブランドを市外に発信します。市民協働で三原ブランドを育成することにより市民の誇りを高めます。その一人の担い手として先頭に立ちます。

## 5 第27回トライアスロンさぎしまへ参加!



友人みんなで応援です!



手をつないで感動のゴール!  
写真右側がわたしです

8月21日、第27回トライアスロンさぎしまへ参加させていただきました。参加と行っても選手ではなく、応援です。また、来賓という立場もありましたが、そういう場は得意ではなく、とにかくイベントを盛り上げたいという思いでした。盟友の竹野くんの勇姿に感動し、島の人たちのおもてなしと運営努力に感謝した1日でした。

男子ですが、じつは甘いもの、スイーツが  
大好物でついつい食べ過ぎちゃうんです。

MY FAVORITE



三原市市議会議員

# 正田洋一 議員レポート

第11号

正田洋一事務所

〒723-0062 三原市本町 2-11-12

TEL 0848-63-0085 E-mail info@shoda-yoichi.jp HP www.shoda-yoichi.jp

リニューアルしました。  
みなさん、どうぞ  
読んでくださいね!



## 正田洋一「日々の絆」

### 1 今年も半ドン夜市でお手伝いしました!



やっさ踊りの応援もあって大盛り上がり!



なれない手つきかもし  
れないですが、精一杯  
頑張りましたよ!

大正14年から続く三原の半ドン夜市。今年は、本町中央通りでやきとりのお手伝い、本町イロハのお手伝いで駄菓子の販売をやりました。暑い夏の夜でしたが、多くの方に訪れていただいて大変うれしかったです。地域の元気のシンボルとして来年も再来年も盛り上げて行きたいと思えます。

### 2 恵下谷八坂神社祇園さん!



ご~ざれ  
ご~ざれ  
ご~ざれ

7月17日恵下谷祇園さんの御神輿を担がせてもらいに行きました。恵下谷を中心に本町・西町の行事で今年も大きな声を出して、みんなと楽しませていただきました。こういった伝統行事が少なくなっていくなか、地域が協力して続けて行かれていることに感謝です。

### 3 西堀付近の歩道を緊急清掃!



真夏日の中みなさんと。まちづくりの原点がここに。

やっさ祭りの前日、港町の町内の方から連絡をいただき、ペアシティ西ロードの歩道が真っ黒に汚れているということで急遽、町内の方々と市の職員さんとで緊急清掃を行いました。築城450年、やっさ祭りなど、観光に力を入れるという三原市ですが、まずは自分の足下からというのを気がつかされる日になりました。気持ちいい汗とはこういうときのものです。また、自分がやっさ祭りにてたときに歩道が綺麗でうれしかったです。

### 4 やっさ祭りに参加「やっさやっさ!」

毎年恒例、本町連合町内会でやっさ祭りに参加させていただきました。自慢の花車と本町のチームワークで今年も昨年の金曜日大賞に引き続き5位、楽しませてもらい、地域の絆を深めた日となりました。



はっ!  
やっさ  
やっさ!



# 定例議会報告

6月の議会の一般質問を中心にまとめています。  
継続して取り上げている空き家対策の具体的な部分と、千葉県四街道市の視察の成果からシティスロモーションについて聞いています。  
また来年もやりますよ！！

## 倒壊危険空き家対策のスピードアップを！

**Q:** 空き家対策において、使えないものは速やかに償却し土地の流動化につなげたい。今回は、倒壊危険空き家の個別のケースについて聞く。

- ①持ち主が所在不明のケース
- ②持ち主に資金力や判断力の対応ができないケース
- ③相続トラスルなどで意志決定ができないケース

**A:** ①戸籍謄本、固定資産台帳等により納税管理人を特定する。  
②③文書は送付、面談を丁寧に行い、弁護士、司法書士に相談し対応する。

**Q:** 次に直ちに倒壊が危惧される危険空き家において、周辺住民への生活への影響を考えた場合、償却の対応に3年や5年もかかるとすれば、住民は失望する。速やかに着手すべきでないか。

**A:** 行政が危険空き家に認定した場合、所有者に助言、指導、監督、命令を行い、それでも改善がない場合は、行政代執行を行うことができるが、代執行までの事務フローを作成するなど適切に実施していきたい。

### ●まとめ

空き家対策の進め方について問題があるとすればスピード感だと感じています。個別ケースにおいて、個人の事情以外の、可能な部分に関与しながら課題感をもって取り組みたいと考えています。また、各自自治体が空き家対策に取り組んでおり、スピード感をもってやった自治体が、人口獲得という戦いを有利に進めることができると考えています。



## シティセールス戦略～ シティスロモーションの手法とブランド化戦略～

視察で千葉県の四街道市に伺いました。私のジェイフォン時代の先輩で世界的に有名になった「写メール」のスロモーションを手がけた人材が、民間からの公募で四街道市のシティセールスを担っておられます。その手法を学び質問に反映しました

**Q:** シティセールスにおいて、三原市の認知、理解、特徴、売りなどをシティスロモーションの視点で整理する必要があると思うのですが。また、例えば、築城450年事業をみると観光課、文化課、それぞれで取り組まれており、主管の総務広報課がシティセールスの全体を把握していないが、どのような体制か。

**A:** シティスロモーションについて、三原市の魅力、特徴を市外へ発信して行くには市民の愛着形成が不可欠と考える。総務広報課は、そうした視点を持ち、ホームページとFacebookの活用を行っている。特にFacebookについては、市内、市外問わず認知度、イメージ向上を積極的に展開している。庁内連携については、主管部署が、各課の係長職を集め、メディア対応の意義や統一的な報道のありかについて研修を実施する。

**Q:** 三原食ブランド化戦略について聞く。タコ・スイーツ・地酒についてどのようにブランドにしたのかわからない。三原にお酒は1銘柄しかない。しかもそのお酒は、東京で既にブランド化されており東京で飲める。スイーツについても、お店が東京に複数展開されており、既にブランド化されている。そのブランドを三原でどのようにブランド化するのか。

**A:** 三原食ブランド化戦略とは、三原らしさ、三原ならではの魅力を備え、認知度が高まっているタコ、地酒、スイーツなどを組み合わせや商品開発から新たな価値を創造し、ブランド価値を生み出していくと考えている。

### ●まとめ

シティセールスについては、主管部署で、情報の目的と効果を整理して、有効な情報発信をすることや自らの強み弱みや周辺他都市の状況を理解することから認知、理解、行動へのステップへ進めていただくよう今後も提言していきたい。また、三原食ブランド化とは、三原のブランド化された商品の知名度を借りて、三原の認知度をあげ、その組み合わせや創作等による商品開発からブランドを拡張し、食文化の街である三原を創造し、発展を目指すということだと理解しました。難しい課題ですが、三原食ブランド化の本質が、この質問で市の職員さんも整理できたのではないかと思います。

ココに注目！

## Yoichi column こだわりをいわせてください！

私個人の思いをここに書かせていただきます。  
是非ご意見、ご指導ください。

### 駅前東館跡地開発の行方は！

この課題は、過去から余曲折がありました。駅前に庁舎建設を中心とした問題に反対を唱え、選挙に勝って天満市長が誕生し、市役所の整備は消えました。一方、市民の皆様の多くは、民間開発によって駅前開発が行われ、賑わいができると思われたのだと思います。しかしながら、三原の商業売り上げ、推定約200億円超に対し、イオンとフジで約160億を越える売り上げがあり、駅前で商業を中心とした街づくりは、成立しないと考えるのが一般的な理解です。そこで出てきたのが、民間の進出を促すために、図書館を併設し、民間に提案をしてもらうというものでした。公共施設の集客の順位は、1番が市役所、2番が図書館なのです。その理屈でいえば、図書館の配置も論理破綻しています。私は、駅前開発には反対ではありません。公共施設との併設を考えるなら、西館を含めて、公共施設をスクラップし、集約することで、既存の公共施設を減らし、集約することでにぎわいを創出するべきだと考えました。また、民間施設は、民間の提案書の条件に希望施設を明記し、街の機能を想像するべきであると委員会で訴えてきました。

しかし、委員会では、残念ながら図書館と広場で民間に提案を募集することとなりました。

民間施設の提案条件については、今後の議論の余地が残っていますが、駅前東館跡地活用の委員会では、ほとんど異論が出ず、ほぼ議論なしで通ったことです。委員会では8割を私が意見をいう展開でした。反対意見をいったのは、3名。ただ、この3名も結局のところ提案実施には賛同しました。一言も言わない議員もいました。賛否がそれぞれの理由で戦われるのが議会であり、結局市民の皆様を二分した問題については、自分の主張を言わないで通してしまう典型的な場面でした。私も今後も情報をブログやレポートを通じてオープンにするとともに市民の皆様のお力をお借りしてよりよい方向へウイングを変えていきたいと思っています。ご意見下さい。



### ※秦森康屯

はたもりこうとん（1923-1994）三原市小坂町出身の画家。東京や大阪で美術を学び、昭和31年関西独立展で第一席を受賞。風景や人物を題材にした作品が多く、晩年まで数多くの優れた作品を残しました。

### 秦森康屯美術館問題は？

秦森康屯美術館建設問題は、予算の時は、見直し意見が多数でしたが、議会の風向きが突然変わりました。裏で何があったのか想像では書けないですが、進むかもしれない状況です。私の意見は、当初のとおり、小坂町への建設には反対。秦森康屯氏の絵の寄贈をうけ、保存・展示することには賛成。リージョンプラザ内に収蔵庫、展示スペースは十分確保できます。また、駅前西館などにも空床がある。絵をみてもらうのに来る人の交通利便性を考えれば、小坂町でないのは明らかです。小坂町への根拠として市が提示する秦森康屯氏は小坂が生誕地という理由付けだが、創作を行っていたのは館町。また、生誕地は他人に売却されており、敷地内には全く関係ない方のお墓があり、撤去もしない案です。仮に市が取得した場合に、市の土地の真ん中に全く関係ない人の土地とお墓がある。計画が甘すぎる上、完成が来年の4月。なぜ急ぐのでしょうか。強引に進めるのかわかりません。

ただ、来年の4月といえば選挙。公共施設の完成が選挙の時、もしくはその直前である、その意味は想像してください。現在のところ、6月議会では、執行しないことになりました。まだ態度を明らかにしない会派や議員がいます。9月議会でも阻止をしたいと思っています。

ただ、突然議論もしない課題が、進むのかそれは裏の何かがあるのだと思います。

### 高坂自然休暇村の1億円

前号でも書きましたが、水面下では計画が進行しているようです。私の情報網のなかからも一定の情報を頂きましたが、補正予算にいきなりあげて、あっという間に可決というようなことのないようにしたいと考えています。しかしながら、こういう案件が、提案から議論の経過まで明らかにできないのか。特定の関係者のみとの約束などにより施策が実行される、それをチェックする前に理事者（市長側）と特定議員の関係性のなかで成立し、可決する。ゆるせる話ではありません。しっかりとチェックします。なお、私は、リニューアル予算に全面反対ではありません。公共施設の整理統合計画の策定前に必要か必要でないかわからない施設に1億もつかう市の財政の余裕がないと言っています。